

(参考様式 5)

事業活用活性化計画目標等評価報告書

作成日：令和 5 年 9 月 29 日

ふりがな	にのみや
活性化計画名	二宮地区活性化計画
ふりがな	とちぎけんもおかし
計画主体名	栃木県真岡市
計画期間	平成 30 年度～令和 4 年度
事業実施期間	平成 30 年度～令和元年度
活性化計画区域	栃木県真岡市二宮地区

1 事業活用活性化計画目標の評価等

(1) 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値 A	実績値 B	達成率(%) $C = B / A$	備考
地域産物の販売額の増加	98,598 千円	378,908 千円	384%	
交流人口の増加	60,707 人	-389,833 人	-642%	
新商品の開発	6 件	7 件	116%	

(コメント)

道の駅にのみや内に直売所「二宮尊徳物産館」を整備することにより、売り場を拡大整備したため、農産物やお土産品の取扱品目が増加するとともに、食堂やスイーツ工房が強化されたことで、真岡市の農産物を使った弁当やスイーツを販売することで、販売額の目標を達成できた。

また、新商品の開発に努め、目標を達成できた。

しかし、交流人口については、令和 2 年度以降、新型コロナウイルス感染症による行動制限やイベントの開催自粛等により、目標を達成できなかった。

(2) 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	㊸地域連携販売力強化施設	
事業内容及び事業量	実施設計 一式、直売所 805.32 m ²	
事業実施主体	真岡市	
管理主体	真岡市	
事業着手年度	事業竣工年度	供用開始日
平成30年	令和元年	令和2年3月7日
事業の効果	直売施設を整備した結果、イチゴ、メロン、ナス、玉葱など真岡市の農産物や加工品を提供することで、市外からの集客による地域農業の活性化に大きな成果をあげている。 また、真岡市の特産品であるイチゴを使ったスイーツの開発にも努め、マスメディアにも取り上げられるなど、真岡産イチゴのブランド力が向上した。	

(3) 総合評価及び今後の方針

(コメント) 直売施設が設置されたことにより、地域農業の活性化をはじめ、マスメディアを通じた市外からの集客により販売額は年々増加傾向にある。 今後は、イチゴをはじめとした農産物の情報発信を強化し、アフターコロナにおける更なる集客強化を図るとともに、引き続き真岡市の農産物を活かした新商品の開発に努めていきたい。 また、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかったグリーンツーリズム事業や農泊事業との連携も図っていきたい。

(4) 第三者の意見

第三評価者	(所属) JA はが野真岡いちご部会 部会長兼二宮支部長	(氏名) 荻田 聡
(コメント) 真岡市内の二宮地区ではいちごの生産が盛んになっており、全国ナンバーワンのいちご生産量を誇る産地となっている。道の駅にのみやにおいては、真岡市の入り口に位置し市内外から多くの利用客に「真岡市産の日本一のいちご」をPRできる場となっており、いちごのシーズンでは多くのお客様が地元で生産されるいちごを求めてきてくれるのは農家としてもやりがいがある。改装直後はコロナ禍で思うようにいかなかったと思うが、アフターコロナにおいては目標達成に向け尽力していただきたい。		

2 活性化計画の目標の評価等

(1) 活性化計画の目標の達成状況

活性化計画の 目標及び達成度	目標			
	目標値 A	実績値 B	達成率 $C = B / A$	

(2) 今後の方針

(コメント)

(3) 第三者の意見

第三評価者	(所属)	(氏名)
(コメント)		

【記入要領】

- (1) 「1 事業活用活性化計画目標の達成状況」のコメントには、目標が未達成となった場合は、その理由を記入すること。また、達成状況が低調である場合は実施要領別記3第11の3(1)及び(3)に基づき改善計画を作成し、農林水産大臣に提出すること。
- (2) 「2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果」は、事業メニューごとに作成すること。また、「事業の効果」には目標の達成に直接関係する効果だけでなく、事業の実施により発現した効果（農山漁村の活性化に関連する効果（取組への参加や地域内で行われた話合の回数などの地域の変化を表す数値等を含む。))を幅広く記入すること。